

## 2023年2月期第3四半期 決算説明会 主な質疑応答(要旨)

決算説明会にて、ご出席の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

### Q. 第4四半期と来期の懸念事項について

A. 第4四半期の外部環境については、コロナ第8波の影響が大型店を中心に一定程度発生しており収束に向けての動きに加え、日本、北米における物価や金利動向についても注視しております。

北米のインフレは今年の中盤以降、落ち着いてくるのではないかとの見方がある一方、リセッションが避けられないとの見方もあり、7-Eleven, Inc.においては如何なる事態にも耐えうるようコスト構造を変革するよう取り組んでいます。

ロシアのウクライナ侵攻については、今年中には解決しないであろうと言われており、エネルギーなど様々な影響は、第4四半期と23年度も継続するとみております。

外部環境が厳しい中、成長ドライバーである国内および海外 CVS 事業においては、オリジナル商品やプライベートブランド(以下:PB)商品に追い風が吹いており、PB 戦略を強化することで利益の伸長を見込んでおります。

### Q. 2023年2月期セグメント別営業利益予想の修正(スーパーストア事業・消去及び全社)について

A. スーパーストア事業においては、コロナ特需の反動が大きいヨークや中国の長引くゼロコロナ政策により売上が大きく落ち込んでいる成都イトーヨーカ堂の第3四半期累計実績を織り込み、下方修正をしております。

消去及び全社については、DX 投資の精査が進んだ事によるコストの減少とセブン&アイ・ホールディングス単体のコスト削減も織り込み上方修正をしております。

### Q. 7-Eleven, Inc.の商品売上について

A. 米国においては既存店売上の伸びに対して、消費者物価指数が上回っています。また、消費者の可処分所得も減少する中、支出を控えている事も否めない事実ではありますが、CVS 事業のレジリエンスは強いと感じております。

価値と価格が見合う PB 商品に対する需要がより一層高まる中、荒利率の高い PB 商品の販売を強化するなど、利益の獲得に向けた取り組みを推進し、一定の成果を上げております。

Q. **Speedway の統合シナジーについて**

A. 第3四半期において通期のシナジー目標\$450Mを既に達成しているため、通期予想を3年目のシナジー目標と同額である\$650Mに修正しております。

また、23年春より、セブン-イレブン・ジャパンの強みである単品管理の取組みが7-Eleven, Inc.でも開始できるインフラが整備されます。これにより、売上・荒利率の増加を期待しております。

また、22年度期中から開始したコストリーダーシップ委員会の支出の見直しは短期的施策にとどまらず、長期的にも効果のある施策に取り組んでいます。これにより、来期は通年で寄与する効果は今期より大きくなると見込んでおります。

Q. **7-Eleven, Inc.の来期見通しについて**

A. 米国におけるインフレとCPGは大きな要素であります。ガソリン荒利については、北米CVSの特性を考慮すると大きく低下しないと考えておりますが、22年度のような水準にて推移するかについては7-Eleven, Inc.と分析を進めております。

また、インフレやリセッションに備え、財務の筋肉質化を進めております。コストリーダーシップ委員会の取組みに加え、投資に関してもハードルレートを上げておりますが、フレッシュフードを中心とした食を大きく伸ばす為の投資については遅滞なく進めてまいります。

Q. **グループ戦略に係る取締役会における検討状況について**

A. すべての取組みについて、きちんとレビューする方針は変わっておりません。不振事業についての議論も勿論ですが、もう一つの大きな議論のポイントは成長事業に対する今後の成長戦略について議論することがより重要だと考えております。特に7-Eleven, Inc.や7-Eleven International LLCの成長がどうなるか、より議論を深めていくことにより、どの程度の資本を配分するかが決まってくるものと考えています。

キャピタルリアロケーションについては、経営資源をCVS事業へ重点的に配分しますが、CVS事業以外に対する経営資源の投下はグループ価値向上に繋がるのかなど、特に社外取締役から様々なご意見が上がっております。グループ戦略再評価においては、定性的な評価に止まらず、定量的な評価も含めて徹底的に議論を進めております。

これらの協議を踏まえたグループ戦略再評価の結果については、3月10日までにご説明できるよう準備を進めております。

Q. 株主還元について

- A. そごう・西武のクロージグがまだ見えず、最終的な損益が定まらないまま配当について修正するのは時期尚早と考えております。クロージグに伴い回収予定の資本使途も含め、適正な株主還元を検討してまいります。  
詳細については改めてご説明いたします。

以上

当社が開示する情報の中には、将来の見通しに関する事項が含まれる場合があります。この事項については、開示時点において当社が入手している情報による経営陣の判断に基づくほか、将来の予測を行うために一定の前提を用いており、様々なリスクや不確定性・不確実性を含んでおります。したがって、現実の業績の数値、結果等は、今後の事業運営や経済情勢の変化等の様々な要因により、開示情報に含まれる将来の見通しとは異なる可能性があります。